



2024年6月27日

各位

会社名 川田テクノロジーズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 川田 忠裕
(コード番号 3443 東証プライム)
問合せ先 常務取締役 経営企画担当 渡邊 敏
(TEL. 03 - 3915 - 7631)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について (2023年度を振り返って)

当社は、本日開催の取締役会において、標記の件に関して審議いたしましたので、その概要につきましてお知らせいたします。

記

1. 現状認識と評価

- 1) ROE：2021年度から2022年度の2年間は8%を下回っていたが、2023年度は8%超を回復
- 2) 株価/PBR：ROEが回復したことで株価は上昇。PBRは、依然1倍を下回るが、一時の0.3倍を下回る水準からはある程度の回復を達成
- 3) 一定の成果はあったと評価するものの、依然PBRが1倍を下回る状況が続くとともに、特に次年度の業績見込の公表後、低調に推移するなど変動幅が大きい
- 4) 全体として、改善に向けた取り組みがまだ十分でないと評価

2. 現状分析

- 1) ここ数年、売上高は緩やかながらも増収基調を継続、1,000億円台を安定的に維持
粗利益率は12%以上を確保し、2023年度には過去最高の粗利益200億円を達成
- 2) 販売管理費の増加傾向は続くものの、粗利益額の増加により吸収し、営業利益額、経常利益とも過去最高
- 3) 上記ROEの改善に加え、後述の株主還元の拡充やIRの充実等でPBRが改善したものと分析

川田テクノロジーズ(株)連結	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	118,369	127,048	115,545	103,760	118,086	129,127	128,000
粗利益	14,551	16,811	15,442	16,809	15,626	20,098	
粗利益率	12.3%	13.2%	13.4%	16.2%	13.2%	15.6%	
販売管理費	8,485	10,052	9,876	10,396	10,600	11,364	
営業利益	6,065	6,759	5,565	6,412	5,025	8,734	5,800
営業利益率	5.1%	5.3%	4.8%	6.2%	4.3%	6.8%	4.5%
経常利益	8,541	8,543	8,048	7,689	6,298	10,538	6,000
当期純利益	6,063	6,449	6,340	5,176	4,231	7,541	4,100
うち持分法投資損益	2,793	2,247	2,516	883	1,378	921	
ROE	11.8%	11.3%	10.1%	7.6%	5.8%	9.6%	
株価(3月末)	7,870	5,410	4,710	3,610	3,765	10,290	
PBR	0.84	0.53	0.42	0.30	0.29	0.72	

3. 改善に向けた方針・目標

- 1) 2023 年度を初年度とする第 3 次中期経営計画を策定し、PBR の改善を目指し、各種目標と取り組み方針を掲げております。

その初年度が終わりましたが、主な目標項目の実績は以下の通りです。想定を上回る利益が確保できたことから、中期計画目標の上方修正を行いました。

(億円)

	当初目標	初年度 実績	進捗率	修正目標
売上高	3,910	1,291	33.0%	3,910
営業利益	186	87	46.8%	223
当期純利益	156	75	48.1%	183

4. 具体的取組への取組及び進捗状況等

2023 年 6 月に公表しました「資本コストや株価を意識した経営を実現」に向けた取組に対する取組状況は以下の通りです。

1) 収益力 (ROE) のアップ

◇中計初年度 (2023 年度) においてはコア事業を中心に業績が回復したことで想定以上の利益確保
この結果を踏まえ中計目標の損益目標を上方修正

2) 適正な自己資本水準

◇2023 年度においてはコア事業や成長分野を中心に 53 億円の投資 (設備投資及び研究開発費)

◇2023 年 5 月に公表した自己株取得 (10 億円) を完了

◇2023 年度より資本コストを試算の上、これを意識した経営に注力

3) 株主還元の拡充

◇2023 年 2 月変更の配当方針に沿って、2023 年度は配当性向 30.2%となる配当を実施

◇上述の通り 2023 年 5 月に公表した自己株取得 (10 億円) を完了

◇中間配当を可能とする環境整備 (定款変更)

4) IR/開示の充実

◇株主・投資家との対話を充実させるべく、個別ミーティング及びスモールミーティングを拡大。

[個別ミーティング 87 回 (前年度比+43 回)、スモールミーティング 5 回 (同+4 回)]

◇上記対話によって得られたご意見や要望等につきましては、定期的に取締役会にフィードバックし、その後の企業経営、事業運営等の参考として活用

5. 今後について

2023 年度の取り組みに関しては一定程度の成果はあったと評価いたしておりますが、依然 PBR が 1 倍を下回っている状況が継続しており、結果としては各種取り組みがまだまだ不十分な点があると判断しております。

今後におきましても、当初掲げました具体的取組を拡充することで「資本コストや株価を意識した経営を実現」し、企業価値の向上に努めて参ります。

以上